

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		てあてるの芽		公表日			年 月 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		設置基準を遵守している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		設置基準を遵守しており、さらに問題があった場合、瞬時に対応できるスタッフがいる。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		下駄箱やタオル掛けなど場所ごとに顔写真をはり視覚化している。絵カードで伝達したり、スケジュールを見やすい場所に配置し、確認できるようにしている。	スケジュールの提示方法をより具体的にし見通しがもてる活動にしていきたい。こどもの気持ちがかみ取れるコミュニケーションの方法を考えていきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		業務終了後や場面において清掃消毒を行っている。キャラクターや季節装飾物などでこどもの興味関心を引き出している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		完全個室ではないが、痾癩など落ち着きを取り戻せるように状況に応じてマットやカーテンで間仕切りをしている。	午睡が必要なこどもと午睡をしないこどもがいるため、雨の日など照明を暗くしてしまうと、部屋全体が暗くなってしま	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		こどもに合わせて目標やその日の活動を話し合う時間がある。	業務効率をあげるためにもタイムスケジュールを設定する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		全職員保護者評価表に目を通し、設備的に難しい部分を除き、意向に添えるように話し合いをしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝礼・終礼時に、こどもの気になる点や活動内容の報告をしている。	報告時のステップ、順番等を統一し共通認識が深められるとよい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修に積極的に参加し、その後社内で研修を行い、理解を深めている。		
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。				令 7 年 3 月末にホームページ公表予定です。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		送迎時に活動内容や保護者様からのご意見ご要望をヒアリングし職員全員で話し合いをしたのちに計画を立案している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		送迎時に活動内容や保護者様からのご意見ご要望をヒアリングし職員全員で話し合いをしたのちに計画を立案している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		送迎時に活動内容や保護者様からのご意見ご要望をヒアリングし職員全員で話し合いをしたのちに計画を立案し、支援を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				

提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		チームでねらい・目標きめて行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		職員間で新しい課題やアプローチの仕方を話し合っている。	固定化しないように努めているが、今後もより柔軟にプログラムが提供できる様にアイデアを出し合っていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		こどもの能力やメンバー構成に配慮し、個別課題や外遊びでの集団活動を組み合わせる。	活動内容を細分化し、こどもの能力にそった活動にして「できた！」が増えるようにしていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼時に当日の打ち合わせ及び昨日の振り返りを必ず行っている。	活動の目的・ねらいについても共通意識をもち支援できるよう話し合いを重ねていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		その日のこどもの様子を記録を含めて話し合い、保護者に報告すべき事柄についても職員間で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日の活動、日報を記録している。	提議された事柄や取り決めたことなどの記録、対処、結果を職員全体で共有し具体化できるようしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		概ね3か月から6か月で見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者が出席している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じて話し合う場を設け連携を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		必要に応じて話し合う場を設け連携を支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		必要に応じて話し合う場を設け連携を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	6		状況に応じて行っている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		令和7年度は実施を検討していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6	保護者会や個人懇談会などは行っており参加しやすい日時を設けている。	ペアレント・トイレットレーンングまではには至っていない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時にご理解を頂いている。	不明点があった場合は、気兼ねなく問い合わせができるようにしていきたい。

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		定期的、必要がある場合は随時モニタリングを行い意向の確認を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		可視化や口頭により専門用語等もわかりやすく説明し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		家族からの要望があればその件について即座に職員と共有し、対応方法を検討している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			保護者会や個人懇談会などは行っており参加しやすい日時を設けている。	父母の会の支援までには至っておらず、今後検討していきたい。きょうだい同士で交流する機会についても同様。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		家族からの要望があればその件について即座に職員と共有し、対応方法を検討している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		紙ベースの通信はないが、ブログやSNS等を通じて活動内容を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		写真にモザイクをつけるなど個人と特定できないように配慮している。また個人情報の書類は鍵がかかえる書庫に保管し、不要な持ち出しなどはしないよう徹底している。廃棄書類に関してはシュレッダーを通してしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		絵カードや写真、実物などで情報伝達をしている。保護者様に関しても直接の会話、アプリを通して行っている。	まだまだ不十分なこともあるため日々精進していきたい。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		祝日に実施したいと考えている。令和7年度はイベントのへの参加を予定している。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		火災や地震などを想定した訓練は行っていたり動画を観ながら振り返りを行っている。	保護者様への周知が行き届いていないと感じている。伝え方を工夫していきたい。また状況に応じてマニュアル等の更新も検討しなければならない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に保護者様から情報提供をいただき発作時等の対応等、周知確認している。日々の支援の中で情報共有を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		指示書はないが、保護者様の要望には応じている。必要な場合には対応していく。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		防災センターでの講習を受講している。	安全な環境づくりは心がけているが、研修等は充分ではないため今後は幅広く研修等を実施していきたい。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		課外活動の際は保護者様へ説明をし、同意を得たうえで実施するようにしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットの共有、事故防止についてはその都度話し合いを実施している。	事故防止・再発防止は話し合うだけではなく、正確に記録として残していくことも必要である。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止についての外部研修には積極的に参加しており、その後は、内部研修を行い全職員で共有している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		状況に応じた個人的な活動制限についてはご家族に同意を得ている。	今後も身体拘束などの人権的な面に関わる場面において、説明を徹底し、双方で認識の相違がないように努めていく必要がある。